

2010年度 建設マネジメント特別講演会の開催報告

社団法人土木学会建設マネジメント委員会は平成22年12月14日、星陵会館（千代田区永田町）において2010年度建設マネジメント特別講演会を開催いたしました。

当日は、主催者挨拶、建設マネジメント委員会活動報告の後、寺島実郎先生、尹萬根氏の2名を講師としてお招きし、『建設産業の国際展開へ向けて』というテーマに沿ってご講演をいただきました。総勢204名の参加者を得て、会場は熱気に包まれ、講師のひと言に熱心に耳を傾けていました。また、質疑応答では日本の建設業の進むべき道についての率直な質問が出されました。

今後も、このような講演会を継続して開催していきたいと考えております。講演いただいたご両名及び参加いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

実行小委員長 加藤 和彦



会場の様子

■ プログラム

13:30 開 場

14:00 開 会・主催者挨拶

14:20 講 演 ① ～世界の構造転換と日本～
冷戦後20年が経過した世界の構造転換と今後の展望
国際関係の中での日本の置かれた現状と進路

講師：寺島実郎先生

(財)日本総合研究所 理事長
多摩大学学長
(株)三井物産戦略研究所会長

16:10 講 演 ② ～韓国の建設事業(国内外)への取り組みの背景と現状～

講師：尹萬根 (Yoon Man Geun) 氏

三星物産(SAMSUNG C&T Corporation)専務(建設部門)
工学博士

17:50 閉 会

※ 本開催報告における講演概要は、建設マネジメント委員会の見解でまとめたものです。

1. 開会・主催者挨拶（小澤 一雅 建設マネジメント委員会委員長）



開会に先立ち、小澤一雅建設マネジメント委員会委員長より、挨拶が行われた。

建設産業の国際展開に向け、寺島実郎先生と尹萬根氏にご講演いただく場を設けることができた。両講師のご見解、話題提供を機として、国際競争力のある産業として建設産業が成長するための議論がより一層展開されることを期待する。

両講師及び本日ご参加いただく皆様に御礼を申し上げ、開会の挨拶としたい。

2. 建設マネジメント委員会活動報告（木下 賢司 建設マネジメント委員会幹事長）



当委員会の木下幹事長より、建設マネジメント委員会の活動概要について報告を行った。

冒頭、委員会の概要、主な活動（調査研究活動・実務交流活動・研究支援活動）、委員会の組織構成について説明し、調査研究活動の成果として、平成 22 年 3 月に発表した国際展開のあり方についての提言「インフラチームジャパンを世界へ」についてあらためてその目的・理念についての概要を説明した。このような緊急提言は平成 16 年 6 月に発表した「公共調達を考える～土木技術者の信頼回復を目指して～」以来となり、前回提言の後は建設マネジメントシンポジウムや

公共調達シンポジウム、地域シンポジウムへの活動が展開されたことを説明した。

同様に「インフラチームジャパンを世界へ」の提言を受けて展開する活動として、4つの特別小委員会（①国際展開推進プロジェクト ②公共事業改革プロジェクト ③国際連携プロジェクト ④契約約款企画）を紹介し、各小委員会における現在の検討内容について報告を行った。

また、本年の建設マネジメント委員会での主な行事として、本日開催される特別講演会をはじめとする主な行事について説明し、併せて平成 22 年 8 月 3 日に開催された「公共調達シンポジウム」についての実施報告及び、翌日 12 月 15 日に開催される「建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会」についての概要の説明を行った。

最後に建設マネジメント委員会においてまとめた最近の書籍について説明し、新刊の「技術公務員の役割と責務」などの紹介を行った。

3. 講演① 寺島実郎先生（財団法人日本総合研究所 理事長）



建設産業の国際展開を語る上では、大局的な視点から世界情勢を捉える必要があるが、それにはまず、我々は今、世界史的パラダイム転換の真っ只中にいるということを抜きに語れない。リーマンショックは単なる金融危機ではなく、東西冷戦後 20 年間続いた米国一極支配の構造の終焉でもある。寺島先生は、今後の世界情勢を「世界経済」「エネルギーと環境問題」「米国」「日本」「アジア」「ユーラシア」という切り口から、現状認識と課題、今後の展望について具体例を織り交ぜながら述べられた。

このような世界潮流の中で日本のとるべき選択肢として、大きな世界観に立った内外政一体の総合戦略を求める構想力を持つことが必要である。そして、具体的な日本創生のシナリオとしては「実体性への回帰」と「自律性への志向」を挙げ、日本のポテンシャルたる技術と産業力への自覚を持って戦略的で効率的な強い国家をつくることが肝要である、と述べられた。特に建設産業関連分野としては国土形成戦略の展開が重要であり、アジアゲートウェイとしての空港、港湾、ネットワーク道路の基盤強化が急務である。

また、最後の質疑応答において、建設産業が国際展開するのに必要なのは何かという質問に対しては、机上の学問ではなく、実務に裏付けられた外国勢と互角に渡り合える強いプロジェクトリーダーが必要で、その人材育成が急務であるという認識を示された。

4. 講演② 尹萬根氏（三星物産（Yoon Man Geun）専務（建設部門））



講師の尹氏は三星建設（サムスン物産の建設部門）専務取締役で、1977年に三星建設に入社以来、韓国国内のPFI大型プロジェクトや、イラク・台湾などの国際プロジェクトに携わってこられた。冒頭、ご自身の業務経験についてのプロジェクトの概要やエピソードを中心に話を進められた。

次に、現在非常に活気のある韓国建設産業の現状についての説明があった。韓国は日本の建設技術に30年以上の遅れがあったが、若く優秀な技術者が多く、急速にその差を縮めていることや、韓国内の入札契約制度・工事管理プロセスがグローバル化されていること、

現在ではプラント分野を中心に手広く国際展開が図られていることなどが紹介された。

その上で、韓国と日本の建設プロジェクトの差異について、国民の勤勉度など文化的な違いの他、チャレンジ精神（韓国）と経験重視（日本）、一括発注（韓国）と分割発注（日本）などの論点からご自身の考えを織り交ぜながら述べられた。

最後に、今後全世界の建設市場は新興国を中心として飛躍的な増加が見込まれるため、ご自身の三星建設としても今後5年間で受注量を10兆Wonから50兆Wonと5倍に拡大するという非常に野心的な目標を掲げていること、そのために専門工事業者も海外進出の準備をしていることが紹介された。また、これらの市場に対しては、高度な技術を保有している日本の企業と海外進出に長けた韓国企業が手を結ぶことでビジネスチャンスが広がり、尹氏はその架け橋となるべくコーディネーターとしての活動を推進していきたいと述べられた。

（尹氏は「基礎工 2011.1月号」に「韓国における海外建設事業への取組み」と題して寄稿されています。）

建設マネジメント特別講演会 アンケート集計結果

【開催状況】

メインテーマ 建設産業の国際展開へ向けて

日時 平成22年12月14日(火)

会場 星陵会館(東京都千代田区永田町2-16-2)

講師 寺島実朗先生(講演①世界の構造転換と日本)

尹萬根(Yoon Man Geun)氏(講演②韓国の建設事業(国内外)への取り組みの背景と現状)

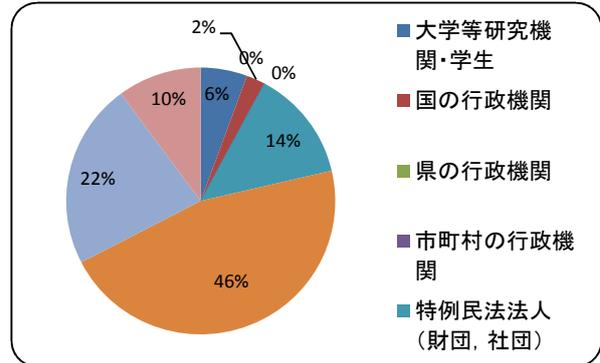
【アンケート対象者】

回答数89名(講演会参加者204名, 回収率43.6%)

【集計結果】

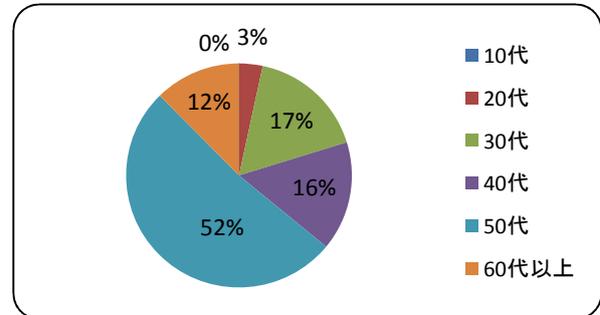
問1. 職業等

大学等研究機関・学生	5
国の行政機関	2
県の行政機関	0
市町村の行政機関	0
特例民法法人(財団, 社団)	12
建設会社	41
コンサルタント	20
その他	9
合計(人)	89



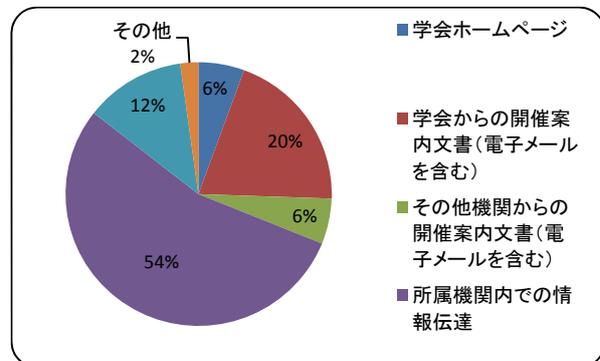
問2. 年齢

10代	0
20代	3
30代	15
40代	14
50代	46
60代以上	11
合計(人)	89



問3. この講演会の開催を何によって知りましたか？

学会ホームページ	5
学会からの開催案内文書(電子メールを含む)	18
その他機関からの開催案内文書(電子メールを含む)	5
所属機関内での情報伝達	49
友人等からの紹介	11
その他	2
合計(人)	90

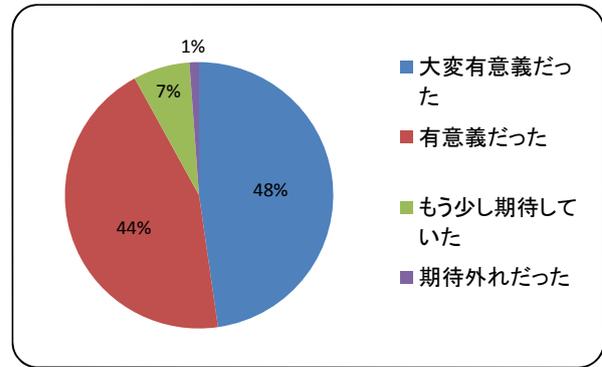


※複数回答あり

問4. この講演会はいかがでしたか？

大変有意義だった	42
有意義だった	39
もう少し期待していた	6
期待外れだった	1
合計(人)	88

※講演が①②の2種のため、複数回答あり



問5. 講演①及び②について、ご意見・ご感想等をお聞かせください。 ※末尾の①②は対象となる講演番号

肯定的な意見(46人, 78%)

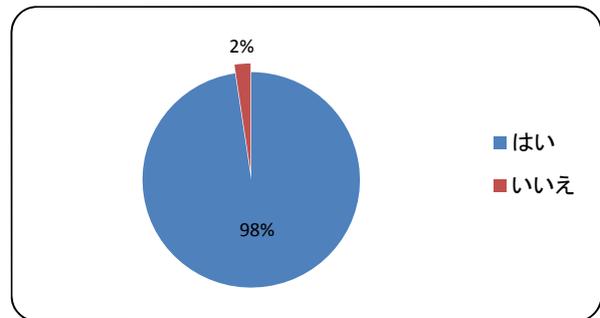
- ・国際社会における日本の位置付け、進むべき方向性を幅広い視点から論じて頂き大変有意義だった①
- ・世界における日本の立場と役割を分かりやすく説明して頂いた、長年抱えてきた日本の姿と現実の差異を初めて知った①
- ・自身の目で観察し、優れた洞察力を持つ方の講演は非常に有意義であった、国際事業を束ねることができるPMをどう育てるかという指摘をされたことには、大変重要な意義があったと思う①
- ・国際的なトレンドを押さえるには、建設業以外の他業種の数値も把握しなければならないことが改めて理解できた①
- ・建設業界、建設行政として何をすれば良いのかが見えにくかったが、それは我々自らが考えなくてはならないのかもしれない①
- ・現在の我が国にプロジェクトマネージャースペシャリストがいないという指摘は同感①
- ・プロジェクトエンジニアリングスペシャリストが不在との話があったが、一人の人間が工学、リーガル、会計の専門知識を有するマネジャーになるのは限界があるので、組織として対応が可能な体制作りを推進できないか考えている①
- ・韓国ゼネコンの役員に話を聞ける機会は貴重だった②
- ・韓国の建設業界の現状を良く理解できた②
- ・韓国の現状を知り危機感を覚えた、人材の国際化は喫緊の課題であると実感した②
- ・三星建設の自信にカルチャーショックを受けた②
- ・体系化された話題ではなかったが、三星建設幹部の実験談として楽しく聞いた②
- ・金を取るだけの価値はあったと思う
- ・会場、参加人数の規模が適切で、じっくり話を聞くことができた

否定的な意見(13人, 22%)

- ・建設業界の海外事業展開に関わる具体的な話をもう少し聞きたかった①
- ・日本土木業界がどうするか、どうしたいかという話を聞きたかった、建設マネジメント委員会の意見も聞きたかった①
- ・もう少し建設業界に関連した内容かと思っていた、プロジェクト・エンジニアリング・スペシャリストの育成方法、国際的な委員会等の経験から相反する利害を持つ2者の交渉術等を聞きたかった①
- ・マクロ過ぎて建設業におけるポイントが分かりにくかった①
- ・大変興味深かったが、建設業の視点からのテーマは少なく期待に反した①
- ・会費を取る講演会であれば話す内容について講演者と十分に打合せしておくべき、一般世界政治、経済状況であればよそでいくらでも聞ける、有名人を呼べば良いというものではない①
- ・マスコミ、雑誌で見聞きしている範囲①
- ・韓国と日本の建設業の違いに終始しており、国際展開に向けてのメッセージがあまりなかった②
- ・もう少し戦略的な会社方針等を聞きたかった②
- ・通訳の質に問題があるのか話の筋が理解困難②
- ・ヘッドホンによる同時通訳にして欲しかった②
- ・会費に値しない講演会だった②

問6. また、このような講演会があれば参加してみたいですか？

はい	83
いいえ	2
合計(人)	85



■ 最後に、今後どのような講演会(講演者・話題)を期待されるかお聞かせください。

- ・建設マネジメントの国際化への政策、国際基準の明確化
- ・市場戦略や解約の留意点といったより具体的な話を聞かせて頂きたい
- ・水、エネルギーの安全保障と建設マネジメント
- ・プロジェクト関係者の体験談や地域、国別のガイダンス等
- ・具体的に海外では何が違って、何に苦労した等について、日本企業で海外プロジェクトの実務を行った方の話を聞きたい
- ・海外経験のある技術者、海外企業の方の講演が聞きたい、会場の年齢層が高かったが、現場の先頭に立って働く若手の視野を広げることが建設業の発展に繋がるのではないかと、若手向けの講演を希望する
- ・日本、各国の海外大型工事のPMの講演を聞きたい
- ・海外の人の話を生で聞くのは重要で、今後もこのような企画をお願いしたい、経済・金融関係の有識者も良いと思う
- ・建設マネジメント委員会の報告、プロジェクトマネジメントリーダーの育成方法について
- ・発注者(国・自治体)が施工会社に求めること、日頃感じていること、建設会社の若い社員に求められる能力と資質
- ・ゼネコン、発注者、コンサルタント等、的を絞った講演会を期待する
- ・今回のように世界的見識がある文化人による講演会
- ・経済界著名人、海外動向有識者
- ・ジャック・アタリ(欧州の世界観、商習慣の本質的共通性)、魚井一生(アメリカ、中東、ロシア、モンゴルのプロジェクトメイキング)
- ・7,000円で寺島実朗さんの話が聞けるのは格安であり、このようなコストパフォーマンスの高い講演会
- ・無料の講演会